

令和2年度病害虫発生予報第4号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
早期水稲	いもち病（穂いもち）	—	並
	紋枯病	並	やや多
	トビイロウンカ（注意報第3号）	多	多
	穂吸汁性カメムシ類	少	やや少
普通期水稲	いもち病（葉いもち）	並	並
	紋枯病	並	並
	縞葉枯病	やや少	やや少
	セジロウンカ	やや多	並
	トビイロウンカ（注意報第4号）	多	多
	コブノメイガ（注意報第5号）	多	多
大豆	ハスモンヨトウ	—	やや多
いちご （育苗床）	うどんこ病	少	少
	炭疽病（ <i>G. cingulata</i> ）	やや多	やや多
	輪斑病	並	やや多
	ハダニ類	並	やや多
アスパラガス	斑点性病害（褐斑病、斑点病）	やや少	並
	アザミウマ類	並	並
かんきつ	かいよう病	やや多	やや多
	黒点病	少	やや少
	ミカンハダニ	少	少
	チャノキイロアザミウマ	やや少	やや少
びわ	がんしゅ病	並	並
	灰斑病	少	少
	ナシヒメシンクイ	並	並
なし	黒星病	少	やや少
	ナシヒメシンクイ	並	並
ぶどう	べと病	並	やや多
果樹共通	カメムシ類	多	多
茶	炭疽病	やや多	やや多
	チャノキイロアザミウマ	やや多	やや多
	チャノコカクモンハマキ	やや少	やや少
	チャノホソガ	並	並
	カンザワハダニ	やや少	やや少
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	やや多
	クワシロカイガラムシ	少	少

早期水稲

1. いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査（37筆）の結果、葉いもちの発病株率は1.1%（2.2%）、発生圃場率は48.6%（27.7%）であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、葉いもちの発病株率は12.0%であった（過去10か年平均 発病株率0.6%）。

2. 紋枯病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査（37筆）の結果、発病株率は0.1%（0.2%）、発生圃場率は16.2%（7.7%）であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発病株率は37.0%（29.0%）であった。

(3) 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本病の発生に好適である。

3. トビイロウンカ

令和2年7月15日付け**病害虫発生予察注意報第3号**による。

4. 穂吸汁性カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

7月前期のイネ科雑草におけるすくい取り調査（18地点）の結果、捕虫網による10回すくい取りあたり虫数は2.3頭（9.5頭）であった（表）。

表 イネ科雑草でのすくい取り調査における虫数の推移

種類別	10回すくいとり当たり虫数						発生地点率	
	H28	H29	H30	R1	平年	R2	平年	R2
ホソハカメムシ	0.4	0.8	1.1	0.2	0.6	0.8	63.2	44.4
クモヘカメムシ	0.2	0.0	1.0	0.2	0.2	0.0	27.7	11.1
シラホシカメムシ	0.1	0.4	0.1	0.2	0.2	0.1	43.1	16.7
アスジカスミカメ	7.2	7.6	7.8	5.0	8.2	1.8	83.8	61.1
ミナミアオカメムシ	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	5.3	5.6
計	7.6	9.2	9.7	5.3	9.5	2.3	90.2	72.2

注) 数値は10回すくい取りあたりの虫数

(3) 防除上注意すべき事項

ア 出穂期以降の水田周辺の雑草地を除草すると本田へのカメムシ類の飛来を助長するので行なわない。

イ 本田への飛来が多くなる夕方に薬剤散布すると効果が高い。また、周辺雑草地も含めて広域一斉防除を行うと防除効果が高まる。

ウ ミナミアオカメムシは斑点米を発生させる能力が高いので圃場での発生に注意する。また一部の薬剤で感受性の低下が報告されているので、薬剤の選定にあたっては十分注意する。

普通期水稻

1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査（80筆）の結果、葉いもちの発病株率は0.0%（0.1%）、発生圃場率は3.8%（2.1%）であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 発病株率0.4%）。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日は下表のとおりである（葉いもち感染好適条件判定モデルによる。詳細はホームページを参照）。

月日	長崎	佐世保	島原	平戸	松浦	厳原	芦辺	福江	大瀬戸	口之津
7月1日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月2日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月3日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月4日	-	-	-	●	-	●	4	-	●	-
7月5日	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-
7月6日	-	●	-	●	●	●	●	●	●	-
7月7日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月8日	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
7月9日	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-
7月10日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月11日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月12日	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-
7月13日	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-
7月14日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

発生指標	?:判定不能	-:好適条件なし	1:準好適条件1	2:準好適条件2	3:準好適条件3	4:準好適条件4	●:好適条件
------	--------	----------	----------	----------	----------	----------	--------

*感染した場合、感染好適と判断された日から7～10日後に病斑発現

2. 紋枯病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査（80筆）の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 発病株率0.0%、発生圃場率0.1%）。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査（80筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率0.1%）。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

ウ 7月前期の巡回調査（80筆）の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.0頭（0.0頭）、発生圃場率は21.2%（21.7%）であった。

エ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.1頭（0.1頭）、寄生株率は12.0%（7.5%）であった。

4. セジロウンカ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査（80筆）の結果、株当たり虫数は0.4頭（0.3頭）、発生圃場率は75.0%（53.0%）であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、株当たり虫数は3.6頭（2.2頭）、寄生株率は83.0%（62.3%）であった。

ウ 7月1～3半旬までの飛来は平年よりやや多い。

5. トビイロウンカ

令和2年7月15日付け**病害虫発生予察注意報第4号**による。

6. コブノメイガ

令和2年7月15日付け**病害虫発生予察注意報第5号**による。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は多く推移している（図）。

イ 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

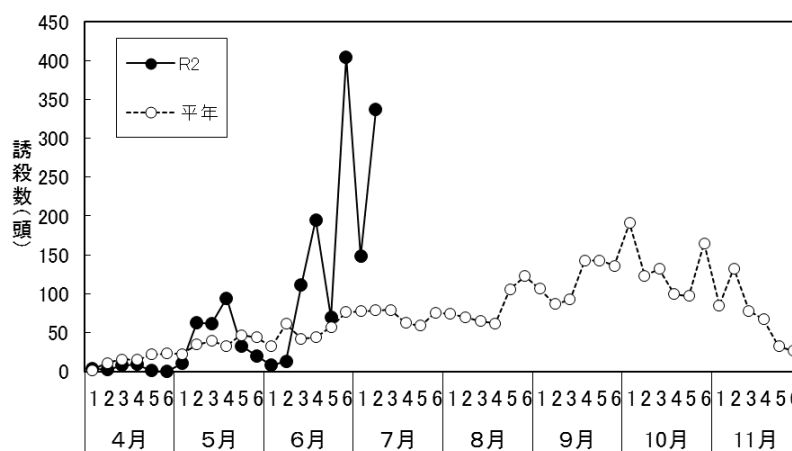


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町) (月・半旬)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。

イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫期に薬剤散布する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（30筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率1.1%、発生圃場率13.6%）。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査(30筆)の結果、発病株率は0.5%(0.0%)、発生圃場率は6.7%(4.3%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実に行う。また、除草を徹底するなど、環境整備に努める。

イ 育苗床は全面マルチを行い、降雨等による地面からの病原菌の跳ね上がりを防止する。また、雨よけ施設がある育苗床では雨よけを行う。

ウ 発病した子苗およびその周辺の苗は速やかに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。

エ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に長雨、台風などの前後、下葉除去など、株を傷つけるような作業後は重点的に行う。

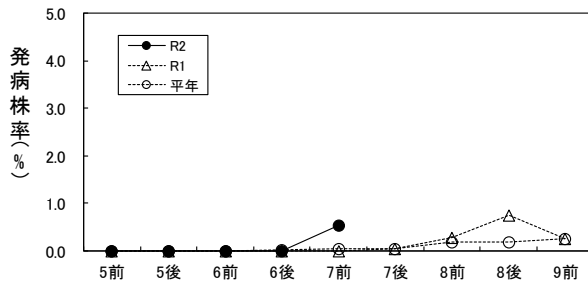


図 炭疽病 (*G.cingulata*) 発病株率の推移

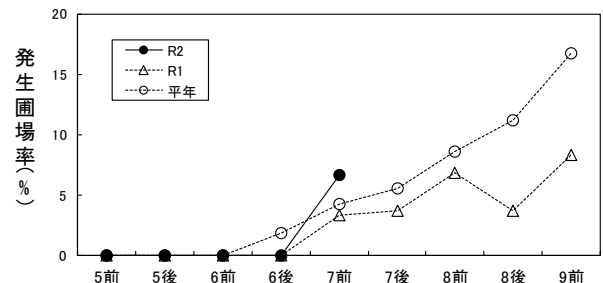


図 炭疽病 (*G.cingulata*) 発生圃場率の推移

3. 輪斑病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査(30筆)の結果、発病株率は4.9%(5.9%)、発生圃場率は66.7%(44.5%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

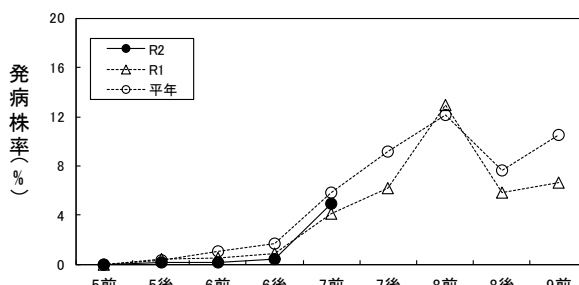


図 輪斑病 発病株率の推移

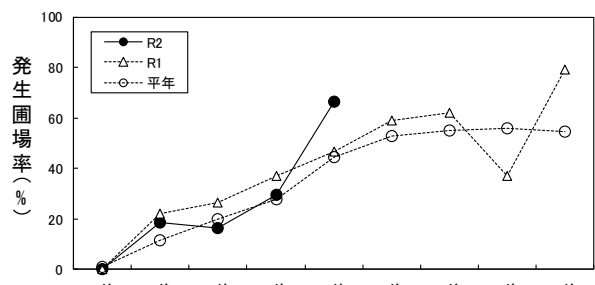


図 輪斑病 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病葉は伝染源となるため、栽培上支障のない範囲で除去し、除去した罹病葉は圃場内に放置せず処分する。

イ 過湿条件は発病を助長するので密植を避け通風を良くする。

4. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査(30筆)の結果、寄生株率は3.4%(2.4%)、発生圃場率は23.3%(20.3%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年並みか高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

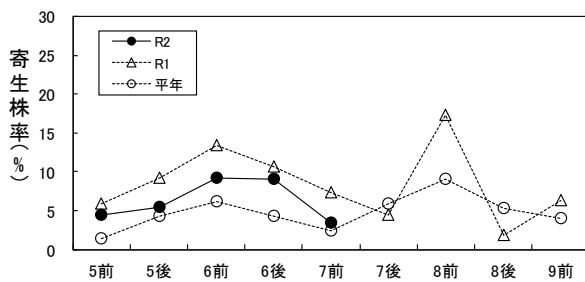


図 ハダニ類 寄生株率の推移

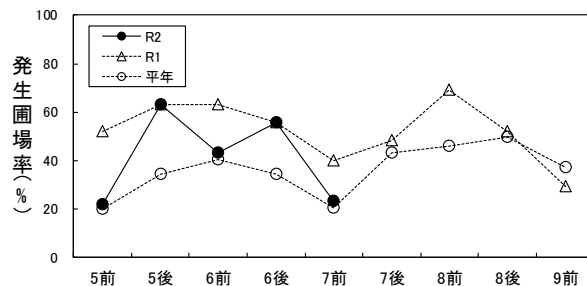


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 本圃への持込みを避けるため、定植までの防除対策を徹底する。
- イ 下葉の裏に多く寄生するので薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤（令和2年長崎県病害虫防除基準 P214～217 の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
- エ 薬剤感受性低下の恐れが少なく土着天敵に影響の少ない気門封鎖剤を活用する場合、これらの薬剤は卵に対する効果が低いので5～7日おきに連続散布を行う。

アスパラガス

1. 斑点性病害

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - ア 7月前期の巡回調査（12筆）の結果、発病側枝率は0.3%（1.1%）、発生圃場率は33.3%（25.4%）であった。
 - イ 向こう1か月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

2. アザミウマ類

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - 7月前期の巡回調査（12筆）の結果、払い落とし虫数（10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10か所）は37頭（9.5頭）、発生圃場率は50.0%（67.8%）で一部多発圃場が見られた。

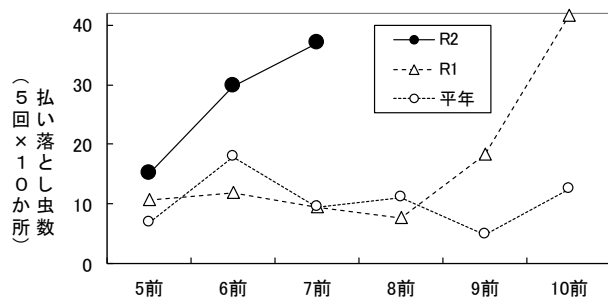


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

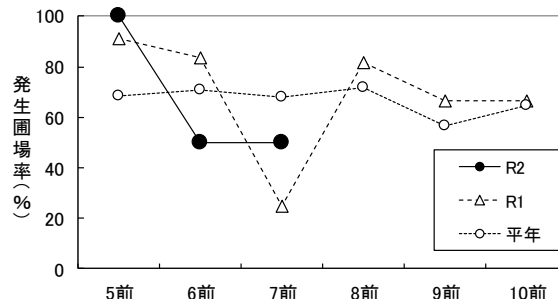


図 アザミウマ類 発生圃場率の推移

かんきつ

1. かいよう病

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病葉率は0.2%（0.1%）、発生圃場率は25.0%（6.6%）であった。

2. 黒点病

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病果率0.0%（1.8%）、発生圃場率5.6%（15.8%）であった。

イ 向こう1か月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

- (3) 防除上注意すべき事項

- ア 今後の気象（降雨）の推移に留意し、防除適期を逸さないよう努める。
- イ 臨機防除で薬剤を追加散布する場合は、各薬剤の使用回数に注意する。
- ウ 枯れ枝が伝染源となるので、管理作業と併せて剪除する。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は0.4%（11.2%）、発生圃場率は11.1%（46.0%）であった。

4. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査（36筆）の結果、被害果率（果梗）は0.1%（0.3%）、発生圃場率は2.8%（7.7%）であった。

イ 黄色粘着トラップ（諫早市）による誘殺量は、平年より少なく推移している（図）。

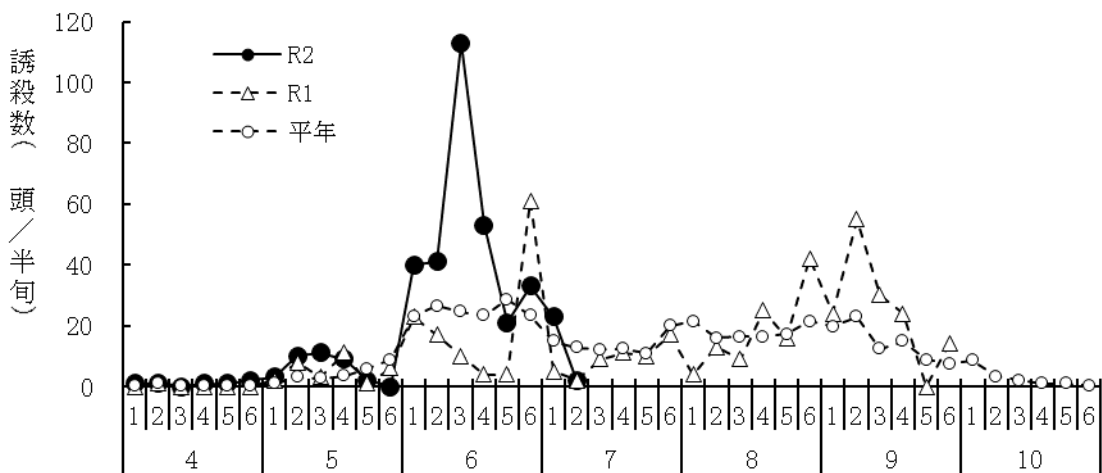


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (諫早市小船越町:黄色粘着トラップ) (月・半旬)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した発生ピーク予測日を下表に示した。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸
第4世代	7/15	7/16	7/25	7/17	7/27
〃 (平年)	7/20	7/26	7/28	7/21	8/2
〃 (前年)	7/17	7/17	7/25	7/19	7/27
第5世代	8/1	8/2	8/12	8/3	8/14
〃 (平年)	8/5	8/11	8/15	8/6	8/20
〃 (前年)	8/2	8/2	8/11	8/5	8/13
第6世代	8/17	8/19	8/30	8/20	9/2
〃 (平年)	8/22	8/29	9/2	8/23	9/9
〃 (前年)	8/18	8/18	8/29	8/22	9/1
標高(m)	27	4	43	10	58

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2020年7月13日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2: 同一地区内でも、山間部では発生ピーク予測日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3: 表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

び わ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（10筆）の結果、発病枝葉率0.2%（0.5%）、発生圃場率20.0%（20.0%）であった。

2. 灰斑病

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（10筆）の結果、発生枝葉率は1.8%（32.0%）、発生圃場率は30.0%（98.8%）であった。

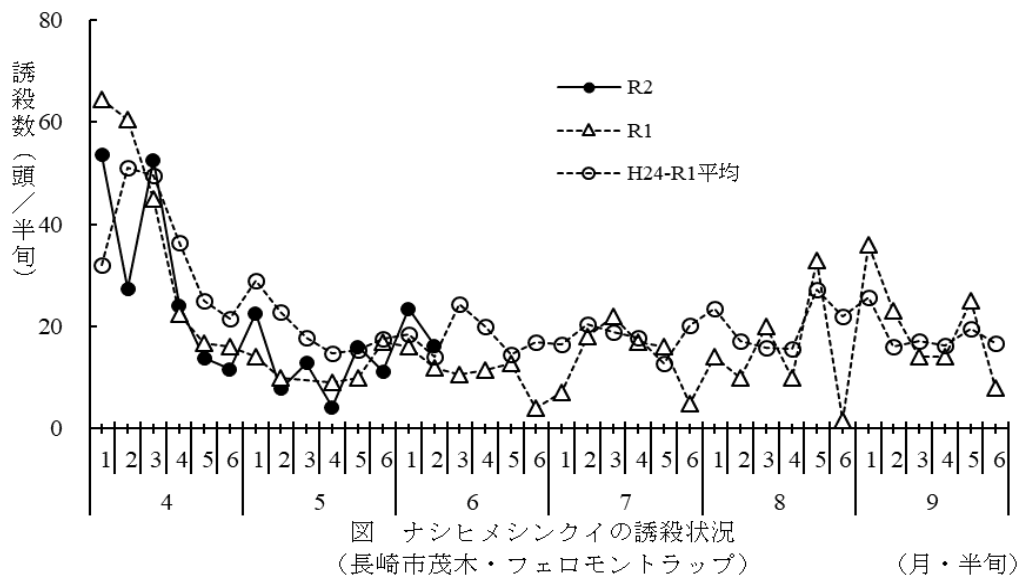
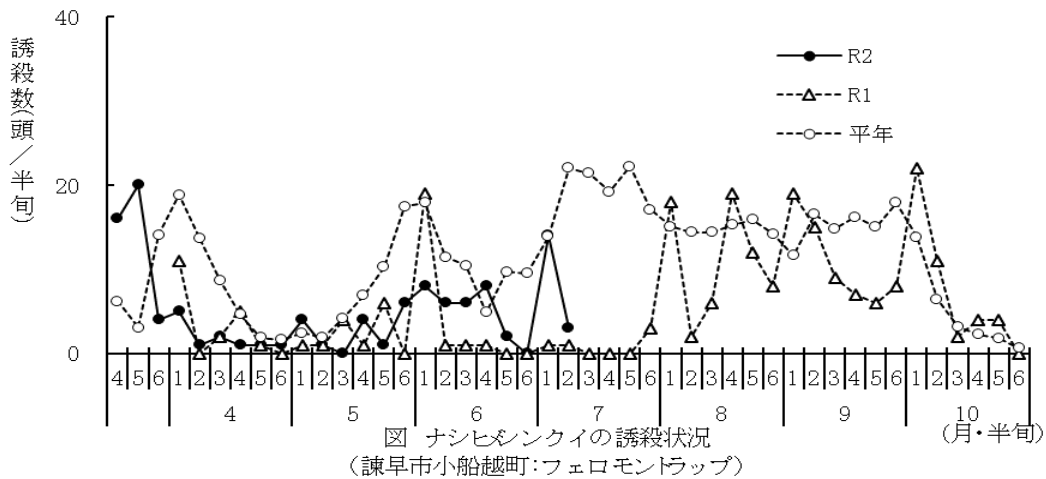
3. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査（10筆）の結果、発生を認めなかった（10か年平均寄生枝葉率0.0%、発生圃場率1.0%）。

イ 諫早市小船越町のフェロモントラップの誘殺量は平年より少なく、長崎市茂木は平年並で推移している（図）。



なし

1. 黒星病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.1%(1.9%)、発生圃場率は16.7%(40.0%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年より多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病した果そう基部、葉、果実は伝染源になるため、見つけ次第園外に持ち出し、埋没等の処分を行う。

イ 降雨により伝染するので、天候を見ながら適切に防除する。

ウ 薬剤散布に当たっては、かけむらがないよう十分量を散布し、薬液のかりにくい園の周縁部には補完散布を行う。

エ 県内において、DMI(ステロール生合成阻害)剤に対する感受性が低下した地域が認められているため、同一薬剤の連用は避けローテーション散布を行う(令和2年長崎県病害虫防除基準P408~409の「作用機構による分類(FRAC)」参照)。

2. ナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - ア 7月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（過去4か年発生を認めない）。
 - イ 諫早市小船越町のフェロモントラップの誘殺量は平年より少なく、長崎市茂木は平年並で推移している（びわの項参照）。

ぶどう

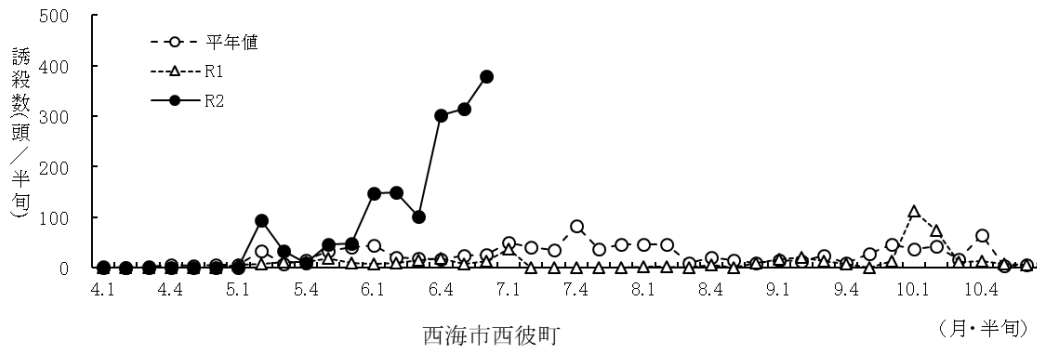
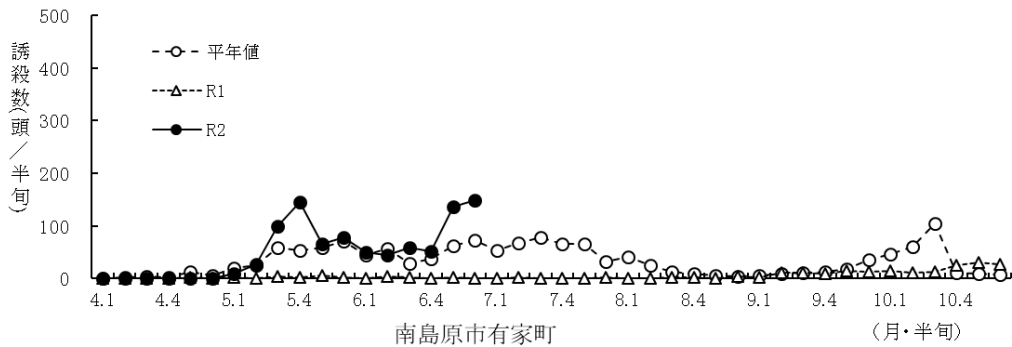
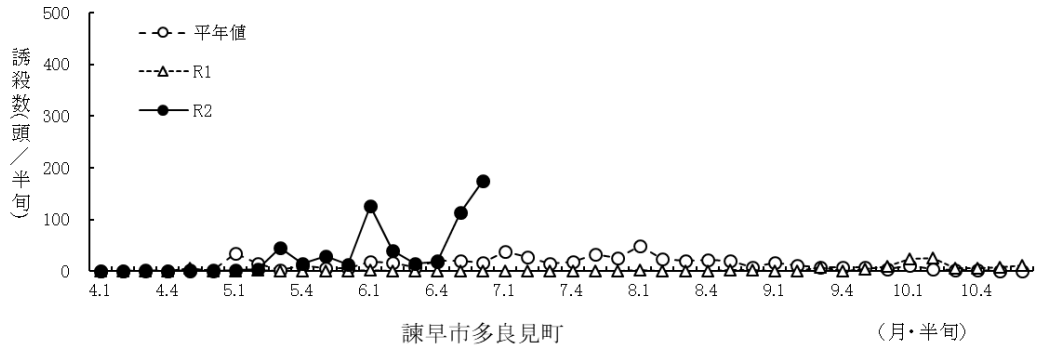
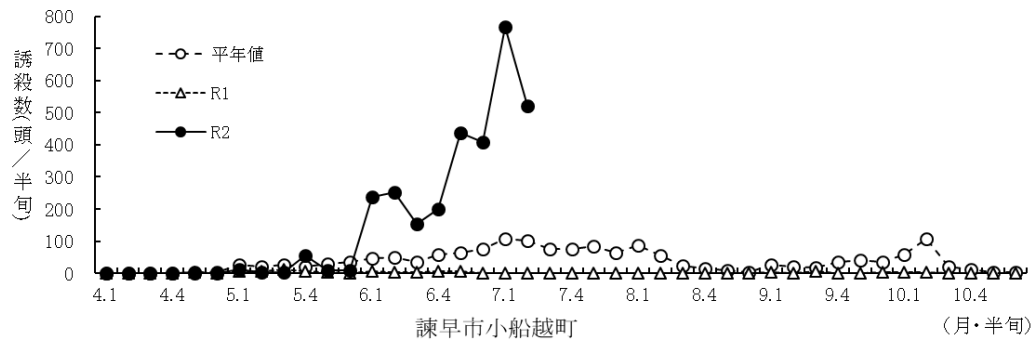
1. べと病

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ア 7月前期の巡回調査（12筆）の結果、発病葉率は2.3%（2.3%）、発生圃場率は16.7%（30.2%）であった。
 - イ 向こう1か月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 降雨後の速やかな乾燥を図るため、枝梢管理を適切に行って、通風、採光を良くする。
 - イ 発病後の防除は難しく、降雨が多いと多発するので、天候を見ながら予防防除を徹底する。

果樹共通

1. カメムシ類

- (1) 予報内容：発生程度 多
- (2) 予報の根拠
 - フェロモントラップの誘殺量は、各地区とも平年より多く推移している（図）。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 飛来時期や飛来数は園によって差があるので、こまめに見廻って早期発見に努め、飛来を認めたら早急に防除する。
 - イ ハウス栽培では、開口部を防虫網（4mm目以下）で被覆し、侵入を防ぐ。また既に被覆済みのハウスでは、防虫網の破損がないか点検・補修する。
 - ウ 無袋栽培のなしでは被害が大きくなるので、特に防除が遅れないようにする。
 - エ 収穫時期の近い品目は薬剤の散布時期に注意し、農薬使用基準を遵守する。



茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり発病葉数6.7枚

(2.9枚)、発生圃場率70.0%(54.4%)で、一部多発生圃場があった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統(令和2年長崎県病害虫防除基準 P426～427の「作用機構による分類(FRAC)」参照)の薬剤は連用しない。

2. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は18.4頭（11.1頭）、発生圃場率は95.0%（87.5%）で、一部多発生圃場があった。

- (3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統（令和2年長崎県病害虫防除基準 P428～429の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

3. チャノコカクモンハマキ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査（20筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡あたり巻葉数0.2枚、発生圃場率12.1%）。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、6月4半旬にピークが見られ、平均より少なく推移している（図）。

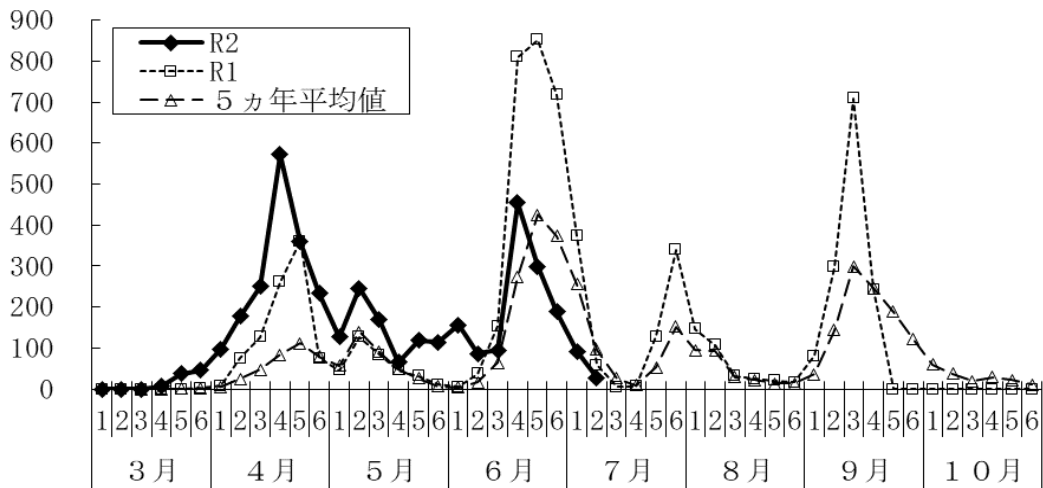


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

4. チャノホソガ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査（20筆）の結果、1㎡あたり巻葉数は0.2枚（0.1枚）、発生圃場率は5.0%（7.1%）であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、7月2半旬にピークが見られ、平均並みで推移している（図）。

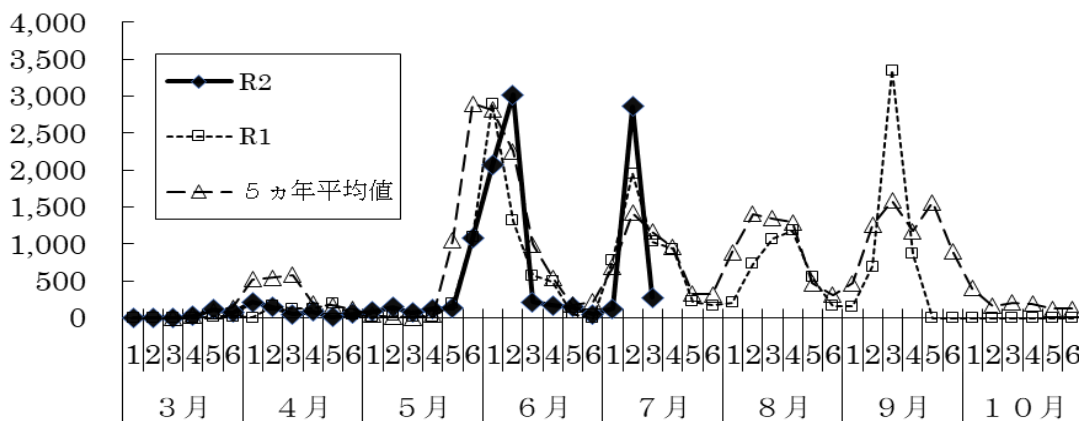


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（20筆）の結果、発生を認めなかった（寄生葉率0.2%、発生圃場率8.8%）。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は5.9頭（2.9頭）、発生圃場率は80.0%（70.4%）で、一部多発生圃場があった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統（令和2年長崎県病害虫防除基準 P428～429の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（20筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率7.9%、発生圃場率は42.4%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると薬剤の効果が低下するので、下表のふ化盛期予測日を参考にし、ふ化盛期～5日後までに防除する。

イ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

表 「有効積算温度則による防除適期予測法」によるクワシロカイガラムシのふ化盛期予測日（第2世代）

地区名	標高(m)	令和2年	令和元年	平成30年	平年 (過去10か年)
東彼杵町太の原	360	7/22	7/24	7/16	7/23
五島市上大津	77	7/12	7/17	7/10	7/15

注1) 方法は「有効積算温度則による防除適期予測法（農林技術開発センター茶業研究室）」により、東彼杵町太の原（農林技術開発センター茶業研究室による測定値）、五島市上大津（アメダスデータ）で予測した。

なお、それぞれ7月14日以降のデータは東彼杵町太の原過去5か年平均、五島市上大津平年値を用いた。

注2) 気温が高くなるとふ化盛期が早まる可能性があるので注意する。

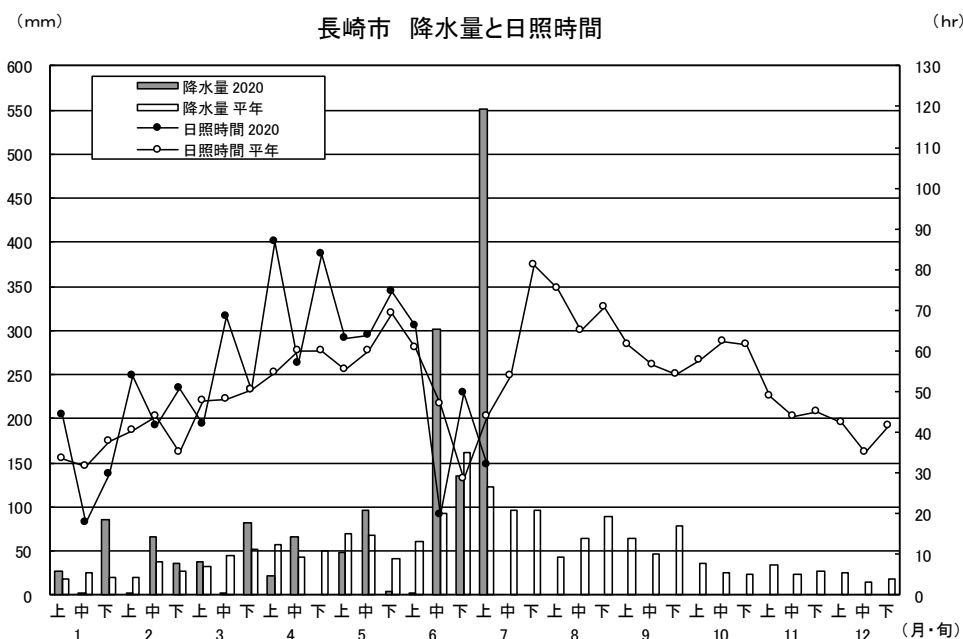
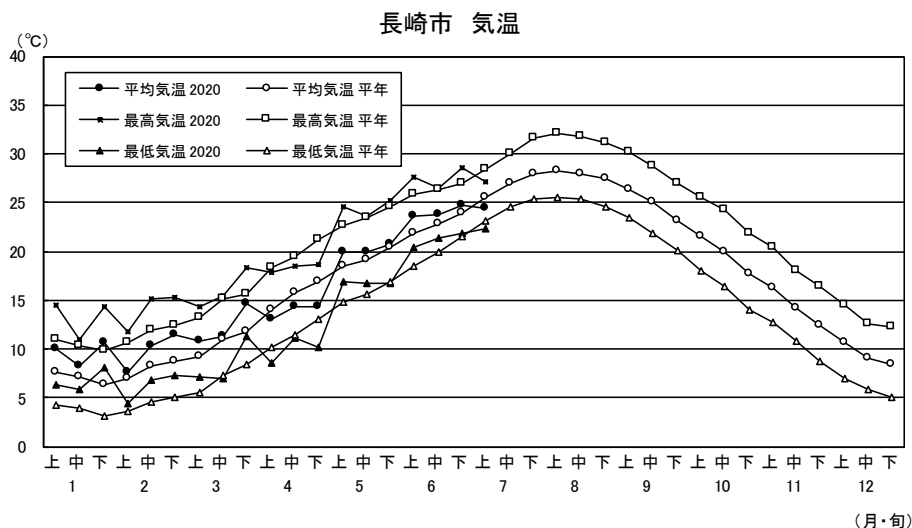
【参考】

(令和2年7月9日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	20	30	50
日照時間	50	30	20

※予報対象地域：九州北部地域

令和2年の気象経過 (長崎地方気象台)



○6月1日から8月31日までの3か月間を「農業危害防止運動月間」と定め、農業事故を防止する運動を実施しています。

○水稲穂吸水性カメムシ類防除のため水田に散布する殺虫剤により、ミツバチに被害が生じる可能性がありますので、十分な配慮をお願いします。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki>

○この情報に関するお問い合わせは、電話をお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

